



福島小学校だより

ふくしま

No. 2

令和8年4月23日



ホームページ <http://www.wakayama-wky.ed.jp/fukushima/>

いただいたご意見について説明させていただきます。

校長 嶋田 暢也

先日、各学級で学校の決まりについて説明しましたが、キーホルダーに関わる変更点に関連して保護者の方からいただいた意見について説明させていただきます。いただいた意見は以下の通りです。

＜いただいた意見＞

今年度に入って、学校ではランドセルに付けるキーホルダーの数は1個にするようにと制限がかかったが、そのようなことを指導するよりも髪の毛の色を染めたりピアスを付けたりしているのを止めるように指導するのが、本来学校がすべきことではないのか。指導で力を入れるべきところがズレている。

この意見については「なるほど」と感じると同時に、丁寧な説明、情報提供が必要と感じましたので、以下でポイントと補足の説明をさせていただきます。

＜説明のポイント＞

- ・ 学校が本来集中すべき「教育」の役割は、子どもたちに質の高い教育を提供し、集団生活の中での社会性を育むことです。
- ・ 子どもの髪の毛の染色や髪形（パーマ含む）、ピアスには保護者による料金の負担が必要です。また、ピアスには金属アレルギーや感染症のリスク、髪の毛については染髪剤による皮膚トラブル等、いずれにおいても医学・健康上のリスク管理が必要で、子どもの体質を最もよく理解している保護者が責任をもって判断・管理すべきことです。
- ・ 学校ではランドセルにつけているキーホルダーが無くなった、壊れた等の子どもからの相談が多く、その対応のための担任の負担は少なくありません。紛失・壊れるなどのトラブルを防ぎ、教員が授業や学校での教育活動の準備に費やす時間を確保するために、必要がない物を学校に持ってこないように指導する必要があります。
- ・ キーホルダーを複数個付けている児童が多いため、全体に向けての指導が必要です。
- ・ ピアスについては、学校では、休み時間に走り回ったり、体育でボールを使ったりと、体を激しく動かします。そのため、着替えの時や、友達とぶつかった拍子にピアスが服や何かに引っかかると、耳たぶが裂けてしまう大きなケガにつながる可能性があります。また、ボールが耳に当たった際、ピアスの芯（ポスト）が頭の方に刺さってしまう可能性もあり、非常に危険です。給食の準備や家庭科の調理実習ではピアスが外れて食べ物の中に入り異物混入となることも考えられます。ピアスの穴をふさぐための目立たないプラスチック製のものがありますが、ケガの危険性は低くなくても給食などへの異物混入となる可能性があります。そのため、学校でのピアス等の着用は認めることはできません。
- ・ ピアスを付けている児童は少ないため、個別に指導しています。



次に補足の説明をさせていただきます。

＜補足の説明＞

【キーホルダーが無くなったり壊れてしまったりした場合について】

・ 学校ではランドセルにつけているキーホルダーが無くなった、壊れた等の子どもからの相談が多く、その対応のために担任の負担は少なくありません。無くなった場合は、担任が児童と一緒に探しますし、必要に応じて学級全体に投げかけて、誰かの荷物の中に紛れ込んでいないか確認します。壊れてしまった場合には、誰がどういう経緯でどのようにして壊れたかを関係する児童から聞き取りをします。その上で、無くなる、壊れるいずれの場合も担任は保護者に電話連絡して説明をします。子どもさんにとっては大事なものが無くなったり壊れたりするということで非常に悲しそうですし、担任は自分の教室で起こったことなので責任を感じてしまいます。このように、子どもにも教員にも良くないことです。

しかしながら、他の子のランドセルと見分けやすいようにという理由から必要最小限の数は認める必要があるとも考えます。このような考えから、キーホルダーの数は1つと制限させていただくことにしました。

【髪型、髪の色、ピアスなどの外見について指導した際に私が体験したこと、そして今小学校の校長として考えていること】

私がまだ教諭をしている時の話ですが、私が担任する中学3年生は、イラストのように眉毛の太さはシャープペンシルで書いた線ほどの太さしかなく、髪型は左右非対称、明らかに中学生らしくない外見でした。私はその中学生にこれ以上眉毛は細くしないこと、髪型は中学生らしくするように指導し、保護者にも伝えました。しかしながら、その際、保護者から思いもかけない返答が返ってきました。



「うちの子の外見は他の中学生と比べておかしいとは思わない。うちの子の髪形や眉毛で学校に迷惑をかけていますか？」 これは20年前の私の経験です。

次は3年前の出来事です。3年前、私が教頭をしている際には別の中学校の保護者から、「男子生徒でツーブロックをしてはいけないと自分の息子が通う学校から指導されたが、それがいけないという根拠があるのか、どのように各学校が指導しているのか調べている。そちらの学校の見解を示して欲しい。」との問い合わせがありました。外見について、「中学生らしさ」「小学生らしさ」「子どもらしさ」という表現がありますが、この「らしさ」は極めてあいまいで、その「らしさ」について説明を求められる時は、非常に労力とストレスを受けることになりますし、納得していただける説明をすることは難しいです。

このように書くと、「学校は髪などの外見に対して指導することを放棄するのか。」と言われてしまいそうですが、そうではありません。中学校からは髪などについて校則があり、それを守るように指導します。これは私見ですが、中学生以上になると「親からの自立」が本格的に始まります。制服を着るようになり、社会に出ても大丈夫な身だしなみ、言動についても学ぶようになり、高校入試も経験します。そのため、子どもの外見の責任は保護者ではありますが、中学校は中学生でも自らの考えで外見を整えることは必要との視点で中学生にも保護者にも指導していくことになります。小学校段階ではその必要性は中学校に比べて小さくなりますが、身だしなみや髪形、髪の毛の色、ピアスなどの装飾品などを含めて、時と場所と機会に応じて自らの外見や言動を自らの判断で適切にできるための素地は育てていくことが大切ですし、取り組んでいくつもりです。



【質の高い教育を提供し、集団生活の中での社会性を育むとは】

1. 学力や人間性を向上させる授業や教育的活動を充実させ提供する。
2. より良い人間関係づくりをするために必要なことを学び、実際に実践し、そこで得た糧を次に生かして人間関係を形成する力の成長につなげる機会を提供する。
3. 考え、価値観、社会的・文化的背景が異なる人とお互いが合意できる合意領域を共に創ることができ、自分も相手も共に幸せになるために自分にできることを考え行動する姿勢と力を育てる。

私見を交えて端的に表現するならば、

- ・ 子どもが、授業にワクワクする、
 - ・ 友達と一緒に何かをすることにワクワクする
- そういう授業や教育的な活動をする機会を提供し、



- ・ 誰かを幸せにして、そして自分も幸せになるために自分にできることを頑張ろうと考え行動する。その姿勢と力を育てることに力を注ぐのが、学校が本来集中すべき教育の役割と言えます。



<提案させていただきます>

【外見を整えることのメリットについて】

- ・ どの子どもも学校で、よりスムーズに、そして楽しく過ごせるようにという願いは、すべての保護者に共通するものです。「人は見た目が9割」という言葉がありますが、これは単に外見を整えることだけを指すものではありません。小学生という、**社会性の基礎を育む時期に「外見を整えることのメリット」**を、いくつかの視点でまとめました。

1. 第一印象はすごく大切です

初対面の相手が自分に対して抱く印象は、わずか数秒で決まると言われています。これを心理学では「メラビアンの法則」と呼びますが、視覚情報は私たちが思っている以上に強力です。

(1) 「安心感」を与える

落ち着いていて清潔感のある身なりは、周囲の大人や友達に「この子（この家庭）はルールや節度を大切にしている」という安心感を与えます。

(2) 損をしない

素晴らしい性格ですごく努力する人でも、派手な髪色やピアスをしていると、まず、「目立つ外見」だけに注目を集めてしまいます。最近は色々な面で個性や多様性が尊重されるようになり、日本でも髪の毛の色を染めたりピアスをしたりしている人が増えてきてはいますが、まだまだ違和感をもつ人はいます。外見を整えることは、相手の人から、まずはフラットな状態で内面を見てもらうための、いわば「お守り」のようなものです。

2. 小学生の時期に「整える」ことが重要な理由

校則はなく、進学のための受験は必須ではない。そのため外見が目立ったとしても不利になることはあまりないため、小学生は外見については最も自由が利く時代です。個性を表現することも大切です。しかし、それだからこそ小学生という時期は「時・場所・場合（TPO）」を学ぶ絶好のチャンスでもあります。

(1) 「心のスイッチ」の切り替えができる

登校前に鏡を見て身なりを整える習慣は、社会人になった時にとても大切です。この習慣は小さいころから身に付けておくとても有効です。学校に通う年代では「これから勉強や集団生活に入るぞ」という心の切り替え（オン・オフ）を助けます。心の切り替えが上手にできる人の方が学力は伸びますし、社会人になってからは良い仕事ができる信頼されます。自分の心の状態を自分の力で良い状態にできる、そして安定して良いパフォーマンスを発揮し続けることができる大人になりますし、人からは信頼されます。本当に幸せな人生を送ることができる素地をつくる機会ととらえることができます。

(2) 健康と安全の確保

小学生は勉強することに加えて、体を動かして遊ぶのが大切な仕事です。髪色を染めると、成長期のデリケートな頭皮や髪へのダメージを与えることになります。若い時は症状に現れることはまず無いと思いますが、中高年になると影響が出る可能性があります。ピアスについては、体育や休み時間の衝突・引っかかりによる怪我のリスクがあります。子どもの安全を第一に考えた「守り」を選択することも大切です。

3. 「個性」は内面から溢れ出るもの

「髪型を制限したら個性がなくなるのでは？」と心配されるかもしれません。しかし、本当の個性は、日々の言葉遣いや友達への接し方、夢中になっている趣味など、もっと深いところに宿ります。それは内面から溢れ出るものです。

少し話は変わりますが、アラジンやライオンキングなどの素晴らしいミュージカルを提供する劇団四季のキャストには、歌ったり踊ったりするのが大好きで自信がある人が集まります。しかし、歌や踊りにどれだけ実力があっても最初は徹底して劇団四季流の歌唱、踊りを覚えさせ身体に浸透させます。その上ではじめてそれぞれの持ち味や魅力を発揮することを許し、最後はその人にしか発揮できない魅力や個性をそれぞれが創り上げていくように指導するそうです。これは「守・破・離」の考えですね。まずは基本をきちんと身に付けた上で、少し自分のオリジナリティを出していく、そして重さや深みがある自分しか出せない個性や魅力を身に付けていくことができた人が一流、超一流と言われるのでしょう。

4. 保護者の皆さんに伝えたいメッセージ

外見をシンプルに整えることは、お子さまの個性を消すことではありません。むしろ、「外見というノイズ」を抑えることで、その子の持つ本来の輝きや内面の良さを、より真っ直ぐに周囲へ届けるための有効な表現方法です。「ダメだからやめなさい」と禁止するのではなく、「整えることで、周りの人が自分の良さに気づきやすくなる。」と考えてみてはいかがでしょうか。

身なりを整えることは、自分を大切にし、同時に相手への敬意を払うという、一生モノの「ソーシャルスキル（社会技術）」になります。お子さまが自信をもって学校生活を送れるよう、まずは「清潔感と安全」という土台を作っておくことが、保護者からの大きなプレゼントになるはずです。オシャレも土台があってこそ深みや魅力が際立つのではないのでしょうか。